



【校長室より】

『体育祭・五高祭を終えて』

校長 原田 尚之

今年の体育祭のテーマは「華羅奮流（カラフル）」。一人一人の個性を活かしてというサブテーマを合い言葉に3年生を中心に団別の熱い戦いが繰り広げられました。五高祭のテーマは「360°」。自分自身を360°という角度から見て、自己の可能性を発見し、希望を持って光り輝く未来へ向かって生きて欲しいという実行委員の思いが込められていました。

若者らしい創意工夫とはじけんばかりのエネルギーが両行事に注ぎ込まれまれ、さすが五島高校生だというのが私の率直な感想です。

特に、この体育祭や五高祭を企画運営してくれた実行委員の皆さんの活躍は目を見張るものがありました。お陰で立派な体育祭・五高祭ができ上がったと思います。何か行事があるとき、実行委員さんのような人が必ず存在することを、そしてその方々に感謝することを我々は忘れてはいけません。

また、PTAの保護者の方々には、リサイクルバザー、ドリンク販売、カレーやうどんの食物バザーに協力をいただき、誠にありがとうございました。約100名の保護者の方に協力を得て、お陰様で充実した素晴らしい体育祭・五高祭を行うことができました。改めて感謝申し上げます。

これで秋の大きな行事である体育祭と五高祭が終わりました。この2つの行事を通して、生徒たちが得たものは勉強や部活動では得られない大変貴重なものだと思います。

五高祭を節目に学校は次の段階に入ります。勉強の秋、スポーツの秋、読書の秋などと言われるように、秋は何をするにも適した季節です。3年生はもちろん1、2年生も一人一人が高い目標を持って、やるべきことに全力で頑張れるよう職員一同懸命サポートしていきたいと思います。

各ご家庭でも、体育祭や五高祭について、生徒たちの汗と涙の結晶を家庭団らんの話題にしていただければ幸いです。



第64回体育祭 6日(日)

9月6日(日)、前夜の雷雨をものともせず、グラウンド整備をした後に晴天が後押しをしてくれる中で、体育祭を無事に実施することができました。予定より少し遅らせての開催となりましたが、多くの保護者や卒業生、地域の方に御参観いただき、短い期間で作りに上げてきた応援合戦や団別演技を披露することができました。



体育祭の運営では、3年生の実行委員が中心となり準備を進め、当日は係の生徒も積極的に活動してくれたおかげで、スムーズに運営することができました。

この経験を体育祭のみで終わらせることなく、今後の生活に活かしてほしいと思います。

体育祭実行委員長 3年1組 上川康平

今年の体育祭はみなさんにとってどのようなものになったでしょうか。五高生全員が楽しむことができたでしょうか。三年生は体育祭本番まで仲間と意見をぶつけ、よりよい練習方法や演技の内容を求めて計画と実行を行いました。その中で意見が対立することもありましたが、相手の意見を聞き、自分の意見を主張することによって解決してきました。私が実行委員長を務めさせていただいて気付いたことは、上に立つ者は他の模範となるように努力し、手本を示すことによって人を動かすことができるということです。このことを来年の体育祭実行委員長になる人は大事にしてほしいと思います。今年を越える体育祭を作り上げてください。期待しています。



赤団団長 3年1組 竹中悠真

～百花繚乱～赤団のスローガンでもあり、象徴でもあった。7月に立候補してから約2ヶ月間、団長として色々なことを学べた。集団をまとめる苦労、運営することの大変さ、決して楽な役目ではなかったが、周囲の支えのおかげで、乗り越えられた。三年生を中心に、それぞれが多面で、自分の色を活かしながら団の力となってくれた。練習を通して団がまとまり、学年を問わず、みんなが楽しそうに活動し、本番でも常に笑顔でやってくれていたことが、自分にとっての財産となった。結果よりも大事なことを感じさせてくれた赤団のメンバーに感謝したい。残り半年、今度は3学年が、赤の学年という一つの集団で戦っていく。一人一人が、それぞれのカラフルな夢に向けて突き進むぞ！



黄団団長 3年2組 出口勇太

私は、今回団長という仕事を任せて頂き、団を取りまとめることの難しさや、仲間と協力して一つのものを作り上げる事が出来た喜び、負けて共に味わった悔しさ、最後には五高全員で「華羅奮流～1人1人の個性を生かして～」をテーマに体育祭を成功することが出来たという達成感などたくさんを学ぶことが出来ました。本当に、団長という仕事をさせていただいて幸せでした。これからも一人一人の個性を大切に、一人一人のカラーを尊重し合える学校を作っていきます。これから三年生は受験へ、一、二年生は部活と勉強へそれぞれの道を歩みます。歩む道は違っていても、これからも五高生全員でこの五島高校を躍進させていきます。応援ありがとうございました。

青団団長 3年5組 大山佳起

今回の体育祭で団長を務めた経験は私を大きく成長させてくれました。青団は3年5組、7組を中心に活動しました。個性の強いメンバーが揃っており意見の衝突も多くありましたが、その度に話し合い、意見をまとめてきました。団長として集団をまとめることが大きな仕事でしたが、その難しさを痛感しました。本番までの期間中、1、2年生との型の練習や3年生の演技練習で、普段とは違うみんなの姿を見て感動しました。集団のありがたや、人との関わり方、陰で支えてくれた人の有り難さを感じることができ、団長をして本当に良かったと思っています。結果でも総合優勝ということで、多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。来年の体育祭では今年よりも素晴らしいものにしてほしいです。これからは自分の夢のために頑張る時です。赤の学年で団結して受験を乗り越えていきたいです。



五高祭 9月12日（土）、13日（日）

今年度の五高祭のテーマは『360°』でした。0には鍵穴があり、この五高祭を通して一人ひとりが光り輝く未来へ希望を持って進むための『鍵』を見つけて欲しいという願いが込められていました。

プレオープニングセレモニーでは、五島（郷土芸能の融合）→五島高校（全部活動の競演）→実行委員会（五高生一人ひとり）というように、全体から個へと向かう導入部分を示しました。オープニングセレモニー、そしてエンディングセレモニー（グランドフィナーレ）では、演劇を通してカズオが『鍵』を見つけ出す過程を表現しました。最後には実行委員一人ひとりが「自分にとっての鍵」を叫んで五高祭を締めくくりました。

保護者の皆様にはバザーへの協力で大変お世話になりました。また、ご来場いただいた皆様にも、残暑厳しい中にご参観いただき心から感謝しています。

今後も「五高祭」が五高生にとって文化を考え、文化を表現できるステージとなるよう、教職員生徒一同、努力を重ねていきたいと願っています。今後とも、五高祭、そして本校生徒会へのご協力、よろしくお願いいたします。



五高祭実行委員長 2年2組 伊東慶馬

「360°」というテーマのもと、今年も五高祭が行われました。私は、実行委員長として不安がありました。しかしその不安も簡単に消えるほど楽しい準備期間を送りました。



実行委員36名は7部門に別れ、約半年間五高祭のために頑張ってきました。12日（土）のプレオープニングセレモニーではいろいろなトラブルも発生したため、実行委員は気持ちを切り替えてメインに臨みました。当日はクラス・部活動の企画や校内装飾などにより盛り上がりました。すべてを終えて、五高生それぞれに新しい自分が見つかったと思います。

今回五高祭を運営するにあたり、先生方、保護者、地域の方々に大変お世話になりました。本当に感謝しています。

五高祭を通して学んだことを次のステップにつなげていきたいと思います。

天下一武道会優勝者 3年4組野口恵之介

私が天下一武道会に出場しようと思ったきっかけとしては、昨年の文化祭の天下一武道会で辻君が試合をしているのを見て「あんなに速答できるなんてカッコイイ」と思ったことです。その時に彼と同じようにドラゴンボールを覚えれば、自分の英語力向上につながると考えました。そして自分はドラゴンボール文法書の例文を必死で覚えました。すると驚いたことに、ただ覚えただけなのに模試の問題を解く際に「この問題は文法書でいえばこの例文だ」というのがわかるようになってきて、自分の英語力もわずかながらですが向上したのかなと感じ始めました。第2回大会に出場するにあたり、今まで自分は「やるだけやったんだ」という自覚はあったのですが、「自分は井の中の蛙ではないか」と内心思っていました。でも試合の時は、自分のベストを尽くせばきっと勝てると思い力の限り戦いました。努力が実を結び、とても気持ちが良かったです。優勝はできましたが、自分にはまだまだこの文法書を使い理解を深めなければならないことがたくさんあります。そこからただ覚えるだけでなく、文法的に解釈したらもっと英語力向上につながると感じ、さらに励みました。これから自分の抜けた知識をものにして入試問題などにも対応できるようにしたいです。



そして天下一武道会では勝ちましたが、模試の点数ではまだまだだと思うので、これからもこの文法書を使ってさらに英語力を向上させたいと思います。

体育祭後の学年集会

3学年主任 久保田幸成

9月1週目の週間予報でも、前日の予報でも「雨」と予想されていた9月6日の体育祭。前日の夜は自宅の窓に大粒の雨滴が叩きつけていました。「体育祭は延期かな」と思い、朝起きてみると、太陽が顔をのぞかせている。約1時間遅れで始まった体育祭では、一度も雨は降らず、2種目カットしただけで滞りなく終了した。そして9月8日（火）7時間目、3学年集会を行いました。今年は北九州予備校の大山純治様を迎え、「学力どアップの秘訣」という演題で講演をしていただきました。以下講演の要点をまとめます。

- ①「不合格」生徒に共通すること
- ②これからの学習法
- ③時間の使い方について

時には冗談や具体的な事例を交えながら、わかりやすく話をさせていただきました。生徒からも好評だったようです。その後学年主任からは今後の日程について、体育祭団長3名からはそれぞれ今後の決意表明がありました。行事からの切りかえを早くしてそれぞれの進路目標に向けた取組を本格的にスタートするしかありません。そのためには1日の中での「すきま時間」をいかに活用するかがポイントになります。体育祭で見た団結力で、全員でまとまった取組に励んでほしい。雨を晴れに変えた赤の学年ならば、全員の進路目標を達成することもできると信じています。

五高祭・体育祭 バザー協力のお礼

9月6日の体育祭にて飲料バザーを、9月12・13日の五高祭において食物・飲料・リサイクルバザーを実施しました。当日はご多忙の中、PTA総務委員を中心に延べ80名近くの保護者の方々に調理・販売のお手伝いをいただきました。また、リサイクルバザーの物品提供や準備に関しましても、たくさん保護者の皆様の御協力をいただきました。

今回のバザーの収益につきましては、体育祭・五高祭のうち作成費や1月に予定されているマラソン大会での豚汁炊き出し等の費用として、生徒に還元していきたいと思っております。御協力ありがとうございました。

親子ふれあい活動（8月26日、27日、28日）

幼児親子に高校へ来ていただき、乳幼児親子と生徒がふれあいの時間を持つ取り組みです。

日時	クラス
8月26日（水）3校時	1-2
〃 4校時	1-5
8月27日（木）3校時	1-6
〃 4校時	1-4
8月28日（金）3校時	1-1
〃 4校時	1-3



今回の体験を終えたあとの生徒の感想です。

赤ちゃんの手や顔を触らせてもらえると、ぷにぷにしているととても気持ちよかったです。赤ちゃんは小さな体でご飯をたくさん食べることに気づきました。また、動くおもちゃで遊んであげると喜ぶことも知りました。お母さん方が子どもを大切にしている気持ちや思いを知って命の尊さを感じ、改めて命は1つしかなく大切でかけがえのないものなんだと感じました。自分がいつかはなるかもしれない親の姿はとても輝いて見えました。「子育ては大変」と聞いたので、今まで育ててくれた親に感謝しなければならないと思いました。同じ年連でも一人ひとりの性格も成長のスピードも違い、育児書などにとらわれずに、その子に合った子育てをすることが大切なんだと思いました。普段乳幼児親子と交流する機会も少ないため、生徒たちにとってとても貴重な時間を過ごすことができました。実施にあたり、親子募集の声かけから、参加いただいた親子まで、たくさんの方々にご協力いただきました。本当にありがとうございました。